

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2014年11月13日
【四半期会計期間】	第53期第2四半期（自 2014年7月1日 至 2014年9月30日）
【会社名】	株式会社イチネンホールディングス
【英訳名】	ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 黒田 雅史
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
【電話番号】	06（6309）1800（代表）
【事務連絡者氏名】	管理第二統括部長 兼 経理財務部長 村中 正
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
【電話番号】	06（6309）1800（代表）
【事務連絡者氏名】	管理第二統括部長 兼 経理財務部長 村中 正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第52期 第2四半期 連結累計期間	第53期 第2四半期 連結累計期間	第52期
会計期間		自 2013年4月1日 至 2013年9月30日	自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	自 2013年4月1日 至 2014年3月31日
売上高	(百万円)	31,673	35,517	67,636
経常利益	(百万円)	2,236	2,596	4,871
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,397	1,604	2,963
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,519	1,759	3,244
純資産額	(百万円)	17,870	20,656	19,275
総資産額	(百万円)	90,211	96,551	94,519
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	55.56	63.78	117.83
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	19.8	21.4	20.4
営業活動によるキャッシュ・ フロー	(百万円)	287	1,661	74
投資活動によるキャッシュ・ フロー	(百万円)	1,394	849	2,487
財務活動によるキャッシュ・ フロー	(百万円)	1,339	2,477	2,219
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	1,466	1,433	1,466

回次		第52期 第2四半期 連結会計期間	第53期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2013年7月1日 至 2013年9月30日	自 2014年7月1日 至 2014年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	29.62	39.98

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（2014年4月1日～2014年9月30日）におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動も徐々に緩和し、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、米国の金融政策の動向、地政学的リスクの高まりなど、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、事業を通じて、全てのお客様に「いちねんで、いちばんの毎日を。」ご提供し、社会に貢献できる企業を目指しております。当社を純粋持株会社とし、各事業会社が、基盤事業である自動車総合サービス事業を中心に、ケミカル事業、パーキング事業、機械工具販売事業、合成樹脂事業を展開しております。また基盤事業の強化を進めながら、事業領域の枠にとらわれない新規事業への参入、規模拡大を目的とした積極的なM&A、海外展開にも挑戦しております。

当第2四半期連結累計期間の連結売上高は355億17百万円（対前年同期比12.1%増）、営業利益は26億53百万円（対前年同期比14.2%増）、経常利益は25億96百万円（対前年同期比16.1%増）、四半期純利益は16億4百万円（対前年同期比14.8%増）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、下記のセグメント別売上高は、内部売上高消去前の金額であります。

<自動車総合サービス事業>

リースにおきましては、リース契約車両は小型化傾向にありますが、リース化の進んでいない地方市場、並びに中小口規模の企業を中心に新規販売を積極的に行いリース契約の増加に努めました。また、既存顧客との取引深耕にも注力した結果、2014年9月末現在リース契約台数は63,277台（対前期末比926台増）となり、リース契約高は124億46百万円（対前年同期比2.8%増）、リース未経過契約残高は512億60百万円（対前期末比3.0%増）となりました。

自動車メンテナンス受託におきましては、当社グループ独自の自動車整備工場ネットワークによる高い点検実施率を強みとしながら、契約台数、契約残高の増加に努めた結果、メンテナンス受託契約高は27億84百万円（対前年同期比1.7%減）、メンテナンス未経過契約残高は75億33百万円（対前期末比4.0%増）となりました。

燃料販売におきましては、主に自動車用燃料給油カードにおいて、低燃費車の普及により需要が減少傾向にありますが、付加価値の高いサービスを強みとし、新規顧客獲得並びに販売数量の確保に注力いたしました。

損益面では、リース及び自動車メンテナンス受託において、契約台数の増加と低年式・走行過多車両の入替えを促進し、メンテナンスコストの抑制に注力いたしました。燃料販売では、仕入価格が上昇しましたが、小売市況悪化により販売価格への転嫁が進まず厳しい状況となりました。

この結果、売上高は185億57百万円（対前年同期比4.9%増）、セグメント利益は14億98百万円（対前年同期比2.7%減）となりました。

<ケミカル事業>

ケミカル事業におきましては、工業薬品関連では、主力製品である燃料添加剤の販売数量が減少し、洗浄剤は前年同期の大型案件の反動により大幅に減少いたしました。また、化学品関連では、ホームセンター等で販売される個人向け自動車ケミカル製品の販売は増加し、機械工具商向けケミカル製品の販売も堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は52億23百万円（対前年同期比2.6%減）、セグメント利益は3億40百万円（対前年同期比20.7%減）となりました。

< パーキング事業 >

パーキング事業におきましては、中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大に努めた結果、2014年9月末現在駐車場管理件数は888件（対前期末比62件増）、管理台数は22,000台（対前期末比1,303台増）となりました。

損益面では、既存駐車場の収益改善策として、周辺店舗への駐車チケットの販売、月極契約の募集や駐車料金の見直し等、売上拡大策を講じるとともに、運営コストの低減を図ってまいりました。その一方、消費税率引き上げの影響や営業員の増員並びに積極的な広告宣伝等に伴う費用の増加がありました。

この結果、売上高は22億64百万円（対前年同期比11.6%増）、セグメント利益は2億53百万円（対前年同期比1.9%増）となりました。

< 機械工具販売事業 >

機械工具販売事業におきましては、取扱アイテムの拡充、オリジナル製品の開発を促進するとともに商品調達コストの軽減に努めてまいりました。

損益面では、前連結会計年度に株式を取得した子会社の寄与もあり大幅に伸びております。機械工具及び自動車整備工具の販売は堅調に推移し、空調工具及び計測工具の販売は底堅く推移いたしました。

この結果、売上高は57億22百万円（対前年同期比38.4%増）、セグメント利益は2億58百万円（前年同期は43百万円のセグメント利益）となりました。

< 合成樹脂事業 >

合成樹脂事業におきましては、新規顧客の開拓を図るとともに品質改善に努めてまいりました。

損益面では、遊技機メーカーへの合成樹脂製品及び科学計測器の販売が好調に推移し、前年同期を大幅に上回りました。

この結果、売上高は38億18百万円（対前年同期比51.9%増）、セグメント利益は2億83百万円（前年同期は50百万円のセグメント利益）となりました。

< その他 >

その他におきましては、売上高は56百万円（対前年同期比2.7%減）、セグメント利益は12百万円（対前年同期比92.5%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

<資産の状況>

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は374億13百万円となり、前連結会計年度末残高370億60百万円と比べて3億53百万円増加いたしました。これは自動車税の納付等による「前払費用」の増加7億21百万円及びファイナンス・リース取引の契約残高の減少による「リース投資資産」の減少2億20百万円が主な要因であります。

固定資産の残高は591億15百万円となり、前連結会計年度末残高574億31百万円と比べて16億84百万円増加いたしました。これはオペレーティング・リース取引の契約増加による「賃貸資産」の増加16億95百万円が主な要因であります。

繰延資産の残高は21百万円となり、前連結会計年度末残高27百万円と比べて5百万円減少いたしました。

以上の結果、資産合計は当第2四半期連結会計期間末残高965億51百万円となり、前連結会計年度末残高945億19百万円と比べて20億32百万円増加いたしました。

<負債の状況>

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は366億82百万円となり、前連結会計年度末残高356億19百万円と比べて10億62百万円増加いたしました。これは、「コマーシャル・ペーパー」の発行による増加25億円、「1年内返済予定の長期借入金」の増加9億55百万円、消費税増税前の駆け込み需要により生じた仕入債務の支払による「支払手形及び買掛金」の減少9億79百万円及び納税等による「未払法人税等」の減少11億81百万円が主な要因であります。

固定負債の残高は392億12百万円となり、前連結会計年度末残高396億23百万円と比べて4億10百万円減少いたしました。これは社債の償還に伴う「社債」の減少6億11百万円及び「長期借入金」の増加1億90百万円が主な要因であります。

以上の結果、負債合計は当第2四半期連結会計期間末残高758億94百万円となり、前連結会計年度末残高752億43百万円と比べて6億51百万円増加いたしました。

<純資産の状況>

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は206億56百万円となり、前連結会計年度末残高192億75百万円と比べて13億80百万円増加いたしました。これは、「四半期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加16億4百万円、配当金の支払による「利益剰余金」の減少3億1百万円が主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末より33百万円減少し、14億33百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、16億61百万円（前年同期は2億87百万円）となりました。これは主に、「税金等調整前四半期純利益」が26億63百万円となったこと、オペレーティング・リース取引の契約増加により「賃貸資産の純増減額（は増加）」56億32百万円が「減価償却費」44億74百万円を上回ったこと、「法人税等の支払額」が18億60百万円になったこと、「仕入債務の増減額（は減少）」が8億70百万円になったことによるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、8億49百万円（前年同期は13億94百万円）となりました。これは主に、自動車総合サービス事業に係る基幹システムの開発及びパーキング事業における機器及び構築物の購入等による「有形及び無形固定資産の取得による支出」9億29百万円によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、24億77百万円（前年同期は13億39百万円）となりました。これは主に、「借入れによる収入」152億円及び「コマーシャル・ペーパーの純増減額（は減少）」25億円が、「借入金の返済による支出」139億28百万円及び「社債の償還による支出」9億61百万円を上回ったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億22百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

2014年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
自動車総合サービス事業	260 (8)
ケミカル事業	234 (12)
パーキング事業	20 (21)
機械工具販売事業	135 (19)
合成樹脂事業	69 (3)
報告セグメント計	718 (63)
その他	- (-)
全社(共通)	61 (-)
合計	779 (63)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員(1日勤務時間8時間換算)を外数で記載しております。

2. 上記従業員数には、嘱託・契約社員97名は含まれておりません。

3. 全社(共通)として記載している従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(7) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	前年同四半期比 (%)
自動車総合サービス事業 (百万円)	-	-	-
ケミカル事業 (百万円)	2,055	2,001	97.4
パーキング事業 (百万円)	-	-	-
機械工具販売事業 (百万円)	-	-	-
合成樹脂事業 (百万円)	2,085	3,185	152.7
報告セグメント計 (百万円)	4,141	5,187	125.3
その他 (百万円)	-	-	-
合計 (百万円)	4,141	5,187	125.3

(注) 1. 金額は製品製造原価ベースで記載しております。

2. 当第2四半期連結累計期間において合成樹脂事業の生産実績が著しく増加しているのは、遊技機メーカー向け合成樹脂製品の受注量増加によるものであります。

仕入実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	前年同四半期比 (%)
自動車総合サービス事業 (百万円)	5,664	5,931	104.7
ケミカル事業 (百万円)	992	962	97.0
パーキング事業 (百万円)	1,379	1,529	110.9
機械工具販売事業 (百万円)	3,345	4,477	133.8
合成樹脂事業 (百万円)	-	-	-
報告セグメント計 (百万円)	11,381	12,900	113.3
その他 (百万円)	-	-	-
合計 (百万円)	11,381	12,900	113.3

(注) 当第2四半期連結累計期間において機械工具販売事業の仕入実績が著しく増加しているのは、タスコジャパン株式会社を2013年5月に子会社化したこと及び株式会社ミットモ製作所を2014年1月に子会社化したことによるものであります。

販売実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	前年同四半期比 (%)
自動車総合サービス事業 (百万円)	17,632	18,500	104.9
ケミカル事業 (百万円)	5,307	5,162	97.3
パーキング事業 (百万円)	2,026	2,264	111.7
機械工具販売事業 (百万円)	4,134	5,715	138.2
合成樹脂事業 (百万円)	2,514	3,818	151.9
報告セグメント計 (百万円)	31,614	35,461	112.2
その他 (百万円)	58	56	97.3
合計 (百万円)	31,673	35,517	112.1

- (注) 1. 総販売実績に対し10%以上に該当する販売先はありません。
2. 金額については、セグメント間取引消去後の金額を記載しております。
3. 当第2四半期連結累計期間において機械工具販売事業の販売実績が著しく増加しているのは、タスコジャパン株式会社を2013年5月に子会社化したこと及び株式会社ミットモ製作所を2014年1月に子会社化したことによるものであります。
4. 当第2四半期連結累計期間において合成樹脂事業の販売実績が著しく増加しているのは、遊技機メーカー向け合成樹脂製品の販売量増加によるものであります。

自動車総合サービス事業セグメント(リース)の状況

a. リース契約の実行高

区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	前年同四半期比 (%)
輸送用機器 (百万円)	12,105	12,440	102.8
その他 (百万円)	5	5	99.3
合計 (百万円)	12,110	12,446	102.8

(注) リース契約の実行高は、発生額より中途解約額を控除しております。

b. 未経過リース料四半期末残高相当額の期日別内訳

所有権移転外ファイナンス・リース取引

	1年以内 (百万円)	2年以内 (百万円)	3年以内 (百万円)	4年以内 (百万円)	5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
前第2四半期連結会計期間末 (2013年9月30日現在)	5,508	4,304	3,069	1,872	945	290	15,991
当第2四半期連結会計期間末 (2014年9月30日現在)	5,433	4,183	2,976	1,884	986	322	15,786

(注) 未経過リース料の期日別内訳については、リース投資資産に係るリース料債権部分の決算日後の回収予定額を表示しております。

オペレーティング・リース取引

	1年以内(百万円)	1年超(百万円)	合計(百万円)
前第2四半期連結会計期間末 (2013年9月30日現在)	6,935	12,043	18,979
当第2四半期連結会計期間末 (2014年9月30日現在)	7,507	13,126	20,633

c. 営業成績

	売上高 (百万円)	売上原価 (百万円)	差引利益 (百万円)	資金原価 (百万円)	売上総利益 (百万円)	営業資産 平均残高 (百万円)	利益率 (%)
前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	12,244	9,826	2,417	164	2,253	42,873	10.5
当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	12,941	10,618	2,322	156	2,165	46,392	9.3

自動車総合サービス事業セグメント(自動車メンテナンス受託)の状況

a. メンテナンス契約の実行高

区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	前年同四半期比 (%)
輸送用機器 (百万円)	2,833	2,784	98.3
合計 (百万円)	2,833	2,784	98.3

(注) メンテナンス契約の実行高は、発生額より中途解約を控除しております。

b. 未経過メンテナンス契約債権の期日別内訳

期別	1年以内 (百万円)	2年以内 (百万円)	3年以内 (百万円)	4年以内 (百万円)	5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
前第2四半期連結会計期間末 (2013年9月30日現在)	3,413	1,672	1,025	641	276	82	7,113
当第2四半期連結会計期間末 (2014年9月30日現在)	3,551	1,787	1,126	709	301	57	7,533

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2014年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2014年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,163,727	25,163,727	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	25,163,727	25,163,727		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2014年7月1日～ 2014年9月30日	-	25,163,727	-	2,529	-	4,155

(6) 【大株主の状況】

2014年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
第一燃料株式会社	大阪市淀川区西中島4丁目3番8号	2,350	9.34
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	902	3.58
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	820	3.26
黒田 雅史	大阪府箕面市	751	2.98
黒田 和伸	兵庫県宝塚市	651	2.59
黒田 勝彦	兵庫県芦屋市	617	2.45
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	527	2.10
イチネン共栄会持株会	大阪市淀川区西中島4丁目10番6号	472	1.88
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	454	1.81
黒田 哲也	大阪府池田市	442	1.76
計		7,988	31.75

(注) 上記の三井住友信託銀行株式会社の所有株式に、信託業務に係る株式はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2014年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	
議決権制限株式(その他)	-	-	
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 11,300	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,134,900	251,349	
単元未満株式	普通株式 17,527	-	
発行済株式総数	25,163,727	-	
総株主の議決権	-	251,349	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,100株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数11個が含まれております。

【自己株式等】

2014年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社イチネンホール ディングス	大阪市淀川区西中島 四丁目10番6号	11,300	-	11,300	0.04
計	-	11,300	-	11,300	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2014年7月1日から2014年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2014年4月1日から2014年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,477	1,444
受取手形及び売掛金	11,275	11,198
リース・メンテナンス未収入金	1,951	2,006
リース投資資産	15,484	15,264
商品及び製品	2,672	2,763
仕掛品	52	56
原材料及び貯蔵品	336	282
前払費用	1,865	2,587
繰延税金資産	585	468
その他	1,372	1,346
貸倒引当金	12	4
流動資産合計	37,060	37,413
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産	58,721	61,683
減価償却累計額	28,620	29,886
賃貸資産(純額)	30,101	31,796
土地	9,472	9,397
その他	12,672	12,963
減価償却累計額	7,148	7,336
その他(純額)	5,524	5,626
有形固定資産合計	45,098	46,821
無形固定資産		
のれん	5,002	4,679
その他	468	832
無形固定資産合計	5,470	5,512
投資その他の資産		
投資有価証券	3,110	3,416
長期前払費用	1,305	1,332
繰延税金資産	1,061	753
その他	1,503	1,437
貸倒引当金	118	157
投資その他の資産合計	6,862	6,782
固定資産合計	57,431	59,115
繰延資産	27	21
資産合計	94,519	96,551

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,727	10,747
短期借入金	4,475	4,600
コマーシャル・ペーパー	1,500	4,000
1年内償還予定の社債	1,772	1,422
1年内返済予定の長期借入金	12,160	13,115
リース債務	236	170
未払法人税等	1,718	537
リース・メンテナンス前受金	503	550
賞与引当金	433	494
品質保証引当金	41	63
その他	1,052	980
流動負債合計	35,619	36,682
固定負債		
社債	2,994	2,383
長期借入金	34,748	34,938
リース債務	92	52
退職給付に係る負債	917	1,030
役員退職慰労引当金	175	151
資産除去債務	217	229
その他	477	428
固定負債合計	39,623	39,212
負債合計	75,243	75,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,529	2,529
資本剰余金	4,155	4,155
利益剰余金	12,147	13,373
自己株式	6	6
株主資本合計	18,826	20,051
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	468	621
退職給付に係る調整累計額	18	17
その他の包括利益累計額合計	449	604
少数株主持分	0	0
純資産合計	19,275	20,656
負債純資産合計	94,519	96,551

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2013年 4月 1日 至 2013年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2014年 4月 1日 至 2014年 9月30日)
売上高	31,673	35,517
売上原価	24,015	27,175
売上総利益	7,657	8,342
販売費及び一般管理費		
役員報酬	316	354
給料手当及び賞与	1,795	1,781
賞与引当金繰入額	444	419
退職給付費用	138	113
役員退職慰労引当金繰入額	19	16
貸倒引当金繰入額	4	32
品質保証引当金繰入額	9	37
のれん償却額	328	322
その他	2,303	2,610
販売費及び一般管理費合計	5,333	5,688
営業利益	2,324	2,653
営業外収益		
受取配当金	27	31
仕入割引	25	32
その他	74	45
営業外収益合計	127	109
営業外費用		
支払利息	148	119
支払手数料	12	11
その他	54	36
営業外費用合計	215	166
経常利益	2,236	2,596
特別利益		
固定資産売却益	50	27
投資有価証券売却益	57	51
特別利益合計	108	79
特別損失		
固定資産除売却損	29	11
投資有価証券売却損	0	0
特別損失合計	29	12
税金等調整前四半期純利益	2,316	2,663
法人税、住民税及び事業税	1,304	677
法人税等調整額	386	381
法人税等合計	918	1,059
少数株主損益調整前四半期純利益	1,397	1,604
少数株主利益	0	0
四半期純利益	1,397	1,604

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,397	1,604
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	121	153
退職給付に係る調整額	-	1
その他の包括利益合計	121	154
四半期包括利益	1,519	1,759
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,519	1,759
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,316	2,663
減価償却費	4,056	4,474
のれん償却額	328	322
貸倒引当金の増減額(は減少)	5	31
受取利息及び受取配当金	34	34
支払利息	148	119
売上債権の増減額(は増加)	409	76
たな卸資産の増減額(は増加)	41	82
リース投資資産の純増減額(は増加)	449	121
賃貸資産の純増減額(は増加)	5,929	5,632
仕入債務の増減額(は減少)	603	870
利息及び配当金の受取額	34	34
利息の支払額	159	120
法人税等の支払額	440	1,860
法人税等の還付額	250	77
その他	1,148	982
営業活動によるキャッシュ・フロー	287	1,661
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	13	10
定期預金の払戻による収入	10	10
有形及び無形固定資産の取得による支出	896	929
有形及び無形固定資産の売却による収入	332	113
固定資産の除却による支出	3	1
投資有価証券の取得による支出	142	112
投資有価証券の売却による収入	195	81
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	902	-
その他	24	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,394	849
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	3,723	7,600
短期借入金の返済による支出	5,965	7,475
コマーシャル・ペーパーの純増減額(は減少)	-	2,500
長期借入れによる収入	11,540	7,600
長期借入金の返済による支出	5,692	6,453
社債の償還による支出	1,961	961
リース債務の返済による支出	11	13
配当金の支払額	276	301
その他	16	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,339	2,477
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	342	33
現金及び現金同等物の期首残高	1,809	1,466
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,466	1,433

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 2012年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 2012年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法については期間定額基準を適用し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が121百万円増加し、利益剰余金が76百万円減少しております。なお、当第2四半期連結累計期間の損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、前連結会計年度及び当第2四半期連結会計期間において取引銀行6行及び取引生命保険会社1社と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当第2四半期連結会計期間の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの 総額	13,600百万円	13,700百万円
借入実行残高	700	900
差引額	12,900	12,800

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
現金及び預金勘定	1,752百万円	1,444百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	285	11
現金及び現金同等物	1,466	1,433

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2013年6月17日 定時株主総会	普通株式	276	11.00	2013年3月31日	2013年6月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2013年10月31日 取締役会	普通株式	301	12.00	2013年9月30日	2013年12月3日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2014年6月17日 定時株主総会	普通株式	301	12.00	2014年3月31日	2014年6月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2014年10月30日 取締役会	普通株式	377	15.00	2014年9月30日	2014年12月2日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には記念配当3.00円が含まれております。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車総合 サービス 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	17,632	5,307	2,026	4,134	2,514	31,614	58	31,673	-	31,673
セグメント間の内部売上高又は振替高	58	56	2	-	-	117	-	117	117	-
計	17,691	5,363	2,029	4,134	2,514	31,732	58	31,790	117	31,673
セグメント利益	1,540	428	248	43	50	2,311	6	2,318	6	2,324

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「機械工具販売事業」セグメントにおいて、タスコジャパン株式会社の株式を取得したことに伴い、同社を新たに連結の範囲に含めております。当該事象による当第2四半期連結累計期間におけるのれんの償却額は23百万円、当第2四半期連結会計期間末における未償却残高は446百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車総合 サービス 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	18,500	5,162	2,264	5,715	3,818	35,461	56	35,517	-	35,517
セグメント間の内部売上高又は振替高	56	61	-	7	-	125	-	125	125	-
計	18,557	5,223	2,264	5,722	3,818	35,587	56	35,643	125	35,517
セグメント利益	1,498	340	253	258	283	2,633	12	2,645	7	2,653

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	55円56銭	63円78銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	1,397	1,604
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	1,397	1,604
普通株式の期中平均株式数 (千株)	25,152	25,152

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

2014年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・377百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・・・15円00銭(普通配当12円00銭、記念配当3円00銭)

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・・・2014年12月2日

(注) 2014年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2014年11月13日

株式会社イチネンホールディングス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中川 一之 印
--------------------	-------	---------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山本 秀男 印
--------------------	-------	---------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イチネンホールディングスの2014年4月1日から2015年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2014年7月1日から2014年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2014年4月1日から2014年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イチネンホールディングス及び連結子会社の2014年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。